

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立上之郷小学校

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成28年4月19日（火）

3. 調査の対象

小学校第6学年、全児童

実施児童数（26人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて中間層が上回っている。

平均正答率（本校 77.9／泉佐野市 69.5／大阪府 71.3／全国 72.9）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて上位層がやや上回っている。

平均正答率（本校 64.2／泉佐野市 52.4／大阪府 55.4／全国 57.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語 A	特 徴 が み ら れ た 設 問
○学年別漢字配列表に示されている漢字を概ね、正しく読むことができる。 1－1 快晴 (92.3/79.3) 1－2 貯金 (100/98.5) 1－3 省く (88.5/81.0) ○目的や意図に応じて、収集した情報を概ね、関係付けながら話し合うことができる。 2 全校集会で歌う歌を決めるために、どのように話し合っているのか、話し合いの説明として適切なものを選択する (92.3/79.2) ○用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などの決め方を概ね理解できている。 7 アイ 毛筆で書いた（一）と（二）を書き直した際、注意した点として適切なものを選択する。 (96.2/81.2)	○ローマ字で表記されたものを概ね正しく読むことができる。 8－3 ローマ字を読む(hyaku) (61.5/50.7) ○目的に応じて図と表を関係付けて読むことに課題がある。 5 公園案内図とパンフレットにある表を関係付けて読み、希望に合うものを選択する (88.5/93.1) ○平仮名で表記されたものをローマ字で書くことに課題がある。 8－1 ローマ字を書く（りんご） (42.3/53.2)

国語 B	特 徴 が み ら れ た 設 問
○目的に応じて、質問したいことを整理することに課題がある。 1－1 スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらないものを選択する (42.3/51.8) ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題がある。 1－3 スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く (38.5/50.4)	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか	38.4	60.4	○	22
国語の勉強は好きですか	53.9	58.3		4.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	88.5	80.7	◇	7.8
読書は好きですか	76.9	74.6		2.3
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	84.6	89.2		4.6
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	100	78.1	○	21.9

○国語の勉強は大切だと思っている児童が多い。

○国語の授業の内容を理解できている児童が多い。

○限られた字数で感想文や説明文を書くことが難しいと思っている児童は少ない。ただし、求められている問題に沿って要約することに課題がみられる。

○文章を読むときに、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる児童の割合が昨年に比べて大幅に増えている。(昨年度は74.3)
しかし、目的に応じてや、質問に応じて文章を読みとることに課題がみられる。

○3年生で学習するローマ字については当該学年だけでの学習で終わらず、復習する時間を取り、より確実に定着を図る必要がある。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて下位層が下回り、中間層から上位層にかけてやや上回っている。

平均正答率（本校 84.1／泉佐野市 75.0／大阪府 76.9／全国 77.6）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて中間層から上位層にかけてやや上回っている。

平均正答率（本校 53.0／泉佐野市 44.0／大阪府 45.8／全国 47.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
【数と計算】 ○除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを概ね理解できている。 1（1） $\square \div 0.8$ の商の大きさについて、正しいものを選ぶ（80.8/64.8） ○除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを概ね理解できている。 1（3）小数の除数の結果を、乗法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く（76.9/68.5） ○示された場面を適切に読み取り、全体の人数を読み取り、全体の人数を求める式に表すことが全員理解できている。 9（1）前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く（100/80.2）	○数の大小関係を概ね理解できている。 3（2）7, 1.7, 7, 0.1の中で一番小さい数と一番大きい数を書く（84.6/74.1） ○末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることに課題がある。 2（2） $4.65 + 0.3$ を計算する（73.1/77.1） ○単位量当たりの大きさの求め方を理解することに課題がある。 4 8 m^2 に14人座っているシートについて、1 m^2 当たりの人数を求める式を書く（69.2/72.0） ○1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題がある。 9（2）定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く（46.2/50.9）

算数B	特徴がみられた設問
【数と計算】 ○示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つか調べることが全員理解できている。 1（1）一辺が9cmの正方形の縦と横の長さを変えたとき、面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く。（100/92.6） ○示された式に数値を当てはめて目標タイムを求めることが概ねできている。 2（2）40mハードル走の目標タイムを求める式に8.1と4を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く。（61.5/50.5） ○示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述することに課題がある。 2（3）目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く。（11.5/15.6）	○縦に書くことができる正方形の数を求め、24個の正方形を書くことができる理由を概ね書くことができている。 3（2）縦39cm横54cmの長方形の厚紙から一辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く。（50/38.4） 【量と測定、図形】 ○図形を構成する角の大きさをもとに、四角形を並べてできる形を判断することに課題がある。ただし、全国平均より13%上回っている。 5（2）示された四角形を並べてできる図形を選ぶ（38.5/25.4）

【数量関係】 ○グラフから貸し出し冊数を読み取りそれを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述すること課題がある。ただし、全国平均より約6%上回っている。 4(3) A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読み取ったことがらとして正しくないことについて、正しくないわけを書く。(30.8/24.9) 【全領域】 式の意味の説明を文章で記述することに課題が見られる。 5(1) 示された形を作ることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く。(0.0/6.9)	
--	--

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の授業の内容はよく分かりますか	84.7	80.2		4.5
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。	88.5	81.1	◇	7.5
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	73.1	67.4	◇	5.7
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	92.3	80.5	○	11.8
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	88.5	80.8	◇	7.7
調査問題の解答時間は充分でしたか(算数A)	80.8	86.3	◇	5.5

○算数の授業の内容をよく理解できている児童が多い。

○算数の問題を解くとき、諦めずに最後まで取り組み、よりよい方法がないか考え、解こうとしている児童が多い。

○問題を順番通りに取り組んだために、解答する時間が足りないと感じた児童が多くいたように思われる。

○単位量当たりの大きさの求め方を理解することに課題がみられる。

○1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題がみられる。

○関係を表す式の意味を理解したり、その式の説明を文章で記述することに課題がみられる。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	・規則正しい生活ができている。 ・家族とのコミュニケーションがとれている。 ・ボランティア活動に参加する児童は少ない。	○毎日、同じくらいの時刻に起きている。 <92.3/90.8> ○毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 <96.1/80.1> ○家の人と学校での出来事について話す。 <92.3/79.2> ○家の手伝いをする。<88.4/82.8> ○地域社会でボランティア活動に参加した。 <42.3/60.7>
【家庭学習の様子】	・家庭学習で教科書を使用する児童は多いが、予習をしている児童は少ない。 ・学習塾で勉強する児童が多い。	○家で予習・復習やテスト勉強などの自学学習において、教科書使いながら学習している。 <76.9/64.6> ○家で学校の授業の予習をしている。<34.6/43.4> ○学習塾で勉強をする。 <84.6/77.0>
【学校での学習の様子】	・相手の意見を聞く態度が身についている。 ・総合的な学習は好きだが、自分で課題をたて、調べ、発表をする学習に取り組んでいる児童は少ない。 ・道徳の時間では、自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組む児童が多い。 ・自分の考えを表現することを得意と感じている児童が多い。	○友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。 <100/92.7> ○「総合的な学習の時間」の勉強は好き。 <88.5/77.2> ○「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 <38.4/77.8> ○5年生までに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた <96.1/77.6> ○学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。 <34.6/43.3>

本校の取組み

◎これまでの取組み

- ・学習規律の定着を図るために、授業開始2分前に教室に戻り、チャイムとともに授業を始められるように学校全体で取り組んでいる。
- ・全学年で、自主学習ノートを実施している。自主学習ノートは、宿題が終わった後、復習や予習に活用し、自ら取り組む学習習慣の定着を図ることをねらいとしている。年度初めには「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、家庭にも家庭学習の習慣を定着させる協力をお願いしている。
- ・「聞き方あいうえお」「話し方かきくけこ」を児童に意識させながら授業に取り組んでいる。
また、学習の内容や学年・学級の実態に応じてペア学習、グループ学習の時間を持ち、友だちの考えを聞いたり、自分の考えを発表できる機会を設けている。

※聞き方 「あいうえお」

あ・・・相手の顔をよく見て
え・・・えんぴつをおいて

い・・・いい姿勢で

う・・・うなずきながら

お・・・終わりまでしっかり聞こう

※話し方 「かきくけこ」

か・・・考えたことを

き・・・聞く人を見ながら く・・・区切りながら

け・・・結論がわかるように

こ・・・声の大きさを考えて

- ・3年生以上の算数の授業では少人数指導を実施し、個に応じたきめ細やかな授業に取り組んでいる。
- ・土曜授業では、国語・算数の基礎学力定着のための時間を確保している。
- ・児童の自尊感情を高めるため、昨年度に引き続き道徳を中心とした校内研究授業、校内研修に学校として取り組んでいる。

◎これからの取組み

1. 特に、国語・算数の取組みの中で、基礎基本の定着を図るために次のように取り組んでいく。

①国語の授業の中で

- ・課題解決にむけて、資料などを活用した発表やまとめ学習を行っていく。
- ・書く力を育てるために、短文作りから始め、そこに条件を加えることや分量を増やすような課題を設定して取り組んでいく。
- ・友だちの意見に対して、理由をつけて賛成・反対などを考えさせる時間を取り、書くことや発表する機会を設ける授業に取り組んでいく。
- ・読書習慣を身につけさせるために、週1回の図書の時間に司書と相談しながら学年に合った本の読み聞かせに取り組んでいく。
- ・書くことに慣れ、自分の考えや思いを文章に表すような書く力を養っていく機会を作っていく。

②算数の授業の中で

- ・問題を読んで、場面を言葉や図を用いて適切に表す活動を取り入れていく。
- ・児童の素朴な表現を算数の用語を用いて的確に表現できるよう全校で指導していく。
- ・授業の始めの5分程度の時間を使い、書き取りや計算などの基礎学力の定着のため、反復練習に取り組んでいく。

2. スマートフォン・携帯電話について

- ・携帯電話の所持率が年々増加してきている。そのため、携帯電話の使い方のルールについて、児童に学校と家庭が協力して指導していく必要がある。また、関係機関の協力も得ながら、児童が危険な状況にさらされないようにスマートフォン・携帯電話の安全教室を予定していきたい。

スマートフォン・携帯電話所持率

(H26 30% H27 50% H28 70%)